



7月のタイ経済は引き続き改善傾向

▶ 要点

- ▶ 2020年7月のタイ経済は新型コロナウイルス感染症対策に伴う経済活動の制限が徐々に緩和していることにより、引き続き回復傾向にあります。民間消費、輸出などの経済部門が前月から改善しました。しかしながら、外国人旅行者の入国制限により、観光業が依然として縮小しました。
- ▶ 2020年8月の消費者物価の上昇率は、前年同月比0.50%縮小し、6ヶ月連続のマイナス伸びでした。8月の減少幅は前月と比べ縮小しました。その主因として、豪雨の影響で野菜の価格が過去13カ月で最高になり、国内外で豚肉の需要が拡大したことで生鮮食品の価格が上昇したことが挙げられました。一方で、振れ幅の大きい生鮮食品とエネルギーを除くコア・インフレ率は同0.30%の小幅な上昇で、前月と比べ横ばいとなりました。
- ▶ 2020年第2四半期のタイ経済は12.2%減となりました。カシコン・リサーチセンターは、2020年のタイ経済が第2四半期に底入れ、残り期間は徐々に収縮幅が縮小すると予想します。タイ経済はなお大きな不確実性に直面し続けます。世界経済のリスクが増す見通しにある上、パーツの上昇や国内政治の不安定化の影響も受けると見えています。2020年のタイ経済成長率見通しを6月時点の6.0%減から10.0%減に下方修正しました。

▶ タイ経済の動向

2020年7月のタイ経済情報

タイ中央銀行が発表した2020年7月の重要な経済指標によると、タイ国内外で新型コロナウイルス感染症対策に伴う経済活動の制限が緩和されたことで、タイ経済は引き続き前月に改善しています。前月に比べて、民間消費や輸出額、工業生産の下落幅が縮小しています。しかしながら、民間投資は冷え込んでおり、前月に比べて下落幅が拡大しました。

7月の民間消費は前年同月比0.1%縮小し引き続きマイナス成長になったが、前月に引き続き改善しています。その主な要因は、経済活動の制限緩和や政府の景気刺激策で消費が増えました。また、前年同月に比べて祝日が多かったことも影響しました。

一方で、民間投資は前年同月比12.8%縮小しました。国内の機械販売が21.8%減、機械・設備を中心とした資本財の

2020年7月のタイ経済指標成長率 (Y-O-Y: 前年比)



輸入が21.2%減、商用車の購入が16.7%減、建設認可を受けた土地の面積が0.2%減となりました。しかしながら、建材の販売は、前月の3.9%減から1.4%増に回復しました。

7月の輸出は、前年同月比11.9%減の185億米ドルとなりました。前月に比べて、収縮幅が縮小しました。自動車・部品、電子製品など多くの物品で輸出は改善しています。貿易相手国のロックダウン解除により経済活動が回復に向かっています。

工業生産に関しては、前年同月比14.7%減となり、前月から改善しました。輸出と民間消費の改善により、ほぼ全ての業種で工業生産の収縮幅が縮小しました。

観光業では、外国人観光客数が前年同月比100.0%減となりました。新型コロナウイルス感染症を封じ込めるため、タイへの入国を禁止する措置が取られたことが理由です。

2020年8月のタイのインフレ率

商務省が発表した2020年8月のヘッドライン・インフレ率は、前年同月比0.50%縮小し、6ヶ月連続のマイナス伸びでした。8月の減少幅は前月と比べ縮小しました。ヘッドライン・インフレの下落率が縮小した主因として、豪雨の影響で野菜の価格が過去13カ月で最高になり、国内外で豚肉の需要が拡大したことで生鮮食品の価格が上昇したことが挙げられました。

品目別にみると、非食品・飲料部門が前年同月比1.73%低下しました。このうち運輸・通信は4.50%減、大幅に低下しました。一方で、食品・飲料部門は前年同月比1.62%増でした。ほぼ全ての品目が上昇しました。とりわけ、肉・魚が3.12%増、調味料が3.09%増、果物・野菜が2.96%増となりました。

一方で、振れ幅の大きい生鮮食品とエネルギーを除くコア・インフレ率は、前年同月比0.30%の小幅な上昇で、前月と比べ横ばいとなりました。

図1：民間消費及び民間投資（成長率：前年比）

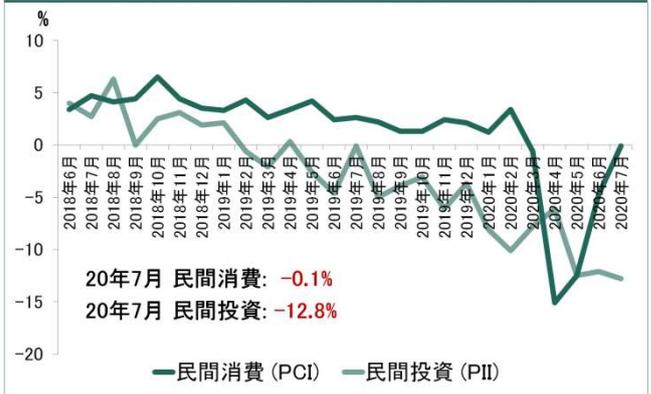


図2：輸出、工業生産、外国人観光客数（成長率：前年比）



図3：ヘッドラインインフレ率及びコアインフレ率

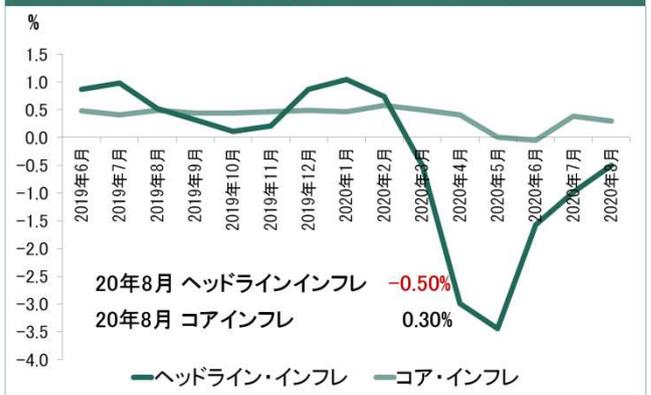


図4：食品・飲料と非食品・飲料の価格



出所：タイ国中央銀行、タイ国工業省、タイ国観光・スポーツ省、タイ国商務省

2020年第2四半期のタイ経済と行き先

2020年第2四半期のタイ経済は12.2%減となりましたが、市場の予測の13~17%減と比べると収縮幅が小さかったです。経済刺激措置を通じた政府消費と政府投資が、この四半期に拡大に転じた要因でした。特に「ラオ・マイ・ティンカン」プログラムに基づき、月額5千バーツの現金を第2四半期の3か月間にわたって給付した措置が、政府支出の拡大を後押ししました。2020年度歳出予算の執行率は、第2四半期に経常的経費と投資的経費のいずれも前年同期を上回りました。政府投資拡大の結果、建設業もこの四半期に成長を維持することができました。

カシコン・リサーチセンターは、2020年のタイ経済が第2四半期に底入れし、残り期間は徐々に収縮幅が縮小すると予想します。タイ経済はなお大きな不確実性に直面し続けます。世界経済のリスクが増す見通しにある上、バーツの上昇や国内政治の不安定化の影響も受けると見ています。

世界経済のリスクについて、米中の対立は激化する見通しです。米国内の政治の行き先も不確実性が大きく、11月の大統領選挙の結果を追跡しなければなりません。

世界中のコロナウイルス感染状況もまだおさまらない中、日本やベトナム、オーストラリアといった多くの国で第1波を上回る規模で第2波が発生しています。この影響により、2020年中の観光の回復は遅れると予想します。こうした要因が、すでに弱体化している市民消費と民間投資を見積もり以上に縮小させる可能性があると考えています。

バーツ相場について、米国経済のリスク拡大、政界経済の後退状況の中、ドル安が進む見通しからバーツは上昇すると予測されます。バーツ高の進行は、タイの輸出と観光の下押し要因となります。

国内の政治動向について、不確実性を伴い、追跡が必要な論点であり続けます。このような状況の中、政府は弱体化したタイ経済の下支えに寄与する追加経済支援措置を講じると見ています。新たな経済刺激措置は、主に雇用の創出や中小企業の事業者の援助に中心すると予測されます。

カシコン・リサーチセンターは、2020年のタイ経済成長率見通しを6月時点の6.0%減から10.0%減に下方修正しました。

図5: 2019年~2020年タイ国経済指標

経済指標 (%YoY)	2019年	2020年(見通し)	
		2020年6月の予測	2020年8月の予測
GDP 成長率	2.4	-6.0	-10.0
- 民間消費	4.5	-2.3	-3.3
- 政府消費	1.4	2.0	2.3
- 民間投資	2.8	-6.6	-12.1
- 公共投資	0.2	3.1	6.0
- 輸出成長率	-2.7	-6.1	-12.0
- 輸入成長率	-4.7	-10.9	-16.8
ヘッドライン・インフレ率	0.7	-0.5	-1.2

出所: NESDB, MOC, カシコンリサーチセンターの予測 (2020年8月)

Disclaimer

This research paper is arranged for public information, which has been obtained from sources believed to be reliable. KResearch does not warrant its completeness, reliability or accuracy for commerce or fitness for a particular purpose. The information contained herein may be subject to change at any time without notice. Reliance upon any information contained herein shall be undertaken at a user's own risk KResearch shall not be liable to any user, or anyone else for any damage occurring from the use of any content herein. Nothing in this research paper shall be counted as containing any advice, recommendation or opinion for decision making in business.